２０２３・６・１１　　黄金井尚美　主任牧師

＜祝福の扉を開く祈り＞

創世記２４：１～１４

【アブラハム】

子どもがなった。しかし７５歳の時に「あなたの子孫は海の砂、星の数ほど増える」という約束を神から授かる。25年後、100歳になって待望のイサクが生まれた。

イサク　→　ヤコブ　→　１２人人の息子　→　１２部族　→　イスラエル民族

イサクが４０歳になった時、息子のお嫁さん探しが開始された。
神が与えてくださった祝福を継承するため、息子イサクのお嫁さん探しは極めて重要。

この任務を託した相手は、最年長のしもべ「エリエゼル」（創世記１５章に登場）

「あなたは私の生まれ故郷に行き、私の息子イサクのために妻を迎えなさい。」４節。
７５０キロの道のり　／　貴重な品々を携えた　／　ラクダ10頭を率いた

どのようにして見つけられるだろうか？
待機した場所・・・井戸　　時・・・夕暮れ
祈りは・・・漠然とした祈りではなく、非常に具体的

「私の主人アブラハムの神、主よ。きょう、私のためにどうか取り計らってください。私の主人アブラハムに恵みを施してください。ご覧ください。私は泉のほとりに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出てまいりましょう。
私が娘に『どうかあなたの水がめを傾けて私に飲ませてください』と言い、
その娘が『お飲みください。私はあなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言ったなら、
その娘こそ、あなたがしもべイサクのために定めておられたのです。
このことで私は、あなたが私の主人に恵みを施されたことを知ることができます。ように。」
【12～14節】

【祈りに込められた人物像】

①気立てがいい。余計な仕事が増えたとイヤイヤでなく、気持ちよく労してくれる人。
②義務だけ果たして終わりでなく、状況を見てとれる心遣いも求めた。
③力持ちで働きもの。（ラクダ１０頭分の飲み水を、井戸からくみ上げるのは大変）

＊当時の習慣は、水を乞う人に飲ませてあげるのは通常。しかしエリエゼルは、より踏み込んだことに注目した。

驚きと喜びと・・・そして安堵したエリエゼル。
しかし、すぐに飛びつくように断定せず、この女性かどうか思いを巡らした。

祈った通りになったかが喜ばしいのではなく、
神の民への祝福につながっているかどうかが重要だった。

◆的を射た祈りを捧げ、エリエゼルは大役を果たすことが出来た。
◆２次的、３次的な事を求める祈りは多い。しかし、一番必要なものを求める祈りは、信仰による。

＜ラインホールド・ニーバの祈り＞
主よ憐れんでください。私は変えることの出来ないものは、それをどんな状況でも受容することのできる心を与えて下さい。変えることができるのに、勇気がないために、私はそこに甘んずる事がないように。変えることができるなら、それを変えることができる勇気を与えて下さい。どちらであるのか、判断する力を与えて下さい。

◆祈り始めた祈りが、自分が考えもしなかった所へ導くことがある。
心の奥の方でぼんやりしていたことに、思いがけず気づかされる。
深い所に押し込めていた、癒えていない痛んだ記憶が癒される。
既に神さまからもらっていた志し、ビジョンへ向かう新たなる力。

＜イギリスの女性宣教師　エミー・カーマイケル＞
天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。　イザヤ５５：９

【エリエゼルという人物】
エリエゼルはアブラハムの相続を受け継ぐ立場にあった。(創世記１５章) しかし、自分の損得や心情を何一つ絡めずに、純粋に、主の御心が成るようにイサクのお嫁さん探しのために祈った。それは、主の思いを求める祈りでもあった。しがらみがあったままならば出来なかった。

しがらみ（柵）・・・川の流れをせき止めるために杭を打ち並べ、柴や竹を絡みつけた装置。